

若手がつなぐゴーヤプロジェクト —若手のチームワークが将来の技術力—

櫻井 勇太 正会員 瀧上工業株式会社 企画管理室 技術開発グループ 主任

近年、働き方改革が提唱され、鋼橋・鉄骨のファブリケーターである当社は、ハード面・ソフト面で生産性向上に取り組んでいる。突拍子もない話題になるかもしれないが、当社が行っている若手のチームワーク向上を目指した「ゴーヤプロジェクト」について紹介する。

ゴーヤ栽培で チームワーク向上…?

土木業界で人手不足が課題となり、当社も会社の将来を見据えて採用活動に注力し、新入社員を増員できた。若手社員の増加は会社のメリットである反面、新入社員同士はいくつかのグループに分かれ、先輩との交流も少なくなった印象を受けた。そのような中、「技術力向上には、ベテランから人数の多い若手への技術継承が重要であり、密なコミュニケーション」

も豊富な資材は「鋼材」だ。当初、この鋼材の利用を計画していたが、「夏季の高温でゴーヤの根が焼けてしまうのではないか」という意見から工場内の廃木材を利用してプランターを手作りし、苗の植え付けに取り掛かった。しかし、植え付けの様子を見た協力業者の方から「土だけでは育ちが悪い!」「肥料はゴーヤに合わせブレンドすることが必要!」「蔓を

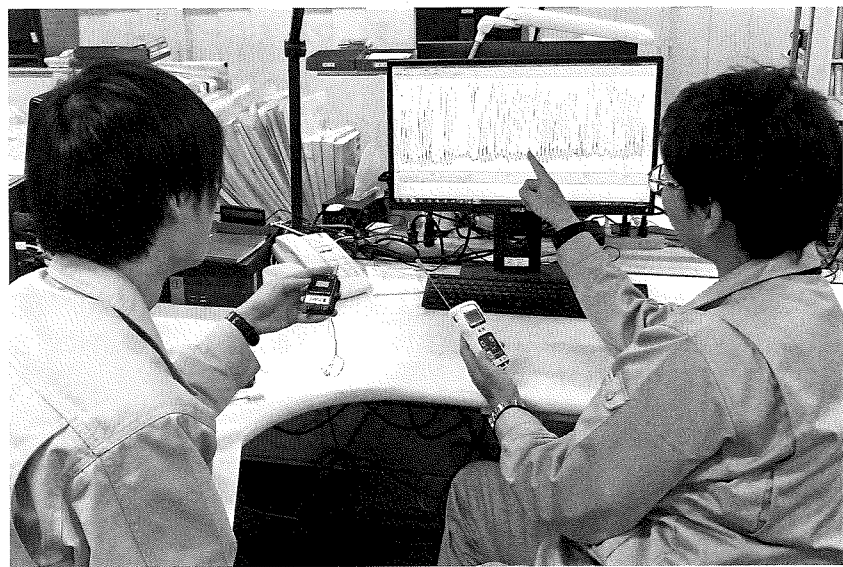
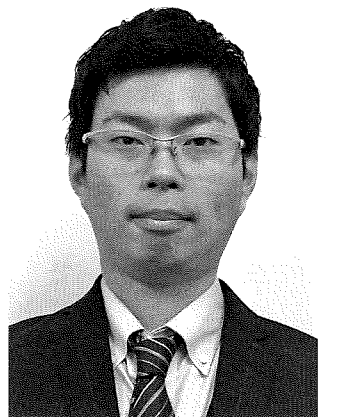


写真1 温度センサーの使用方法を指導

を必要とする。若手が先輩と接しやすいよう顔を広め、チームワークを深められる取り組みが将来の生産性向上につながる」として考案されたのが「ゴーヤプロジェクト」だ。プロジェクトの成り立ちには、愛知県名古屋市中川区から同県半田市の橋梁・鉄構製作工場敷地内への本社移転に伴い新築した本社社屋のある悩みから始まる。本社社屋は日当たりがよく開放感のあるフロアだが、夏季は西日により室温が上昇し、エアコンの設定温度を下げることもあり、心

絡めるネットには支柱があった方が「良い!」などの貴重な助言を頂くことになった。そこで、土に牛糞を混入した上で、農家出身の方から頂いた肥料をブレンドするアイデアが出た。蔓を絡めるネットの支柱は、工事部門の先輩の力を借りながら現場で使用する枠組み足場を組み立てて利用した。最後に、ゴーヤのグリーンカーテンによる「省エネ効果の示し方」である。省エネ効果として最も分かりやすいのは「温度変化」だ。先輩方に相談したところ、現場業務で温度計測に使用するワイヤレス温度データロガーを紹介され、使い方を教わった(写真1)。グリーンカーテンの有無で温度を比較できるような温度センサーを設置し、ゴーヤが成長してくれるのを待つこととなった。



櫻井 勇太氏
SAKURAI Yuta

2011年岐阜工業高等専門学校環境都市工学科を卒業。現在は、鋼橋の保全や診断に関する技術開発を行いながら、岐阜大学大学院修士課程に在学中である。

地よい太陽光を取り込みながら、室温上昇を抑える省エネ対策を模索していたところ、新入社員歓迎会で話題になったのが、ゴーヤの葉を利用したグリーンカーテンである。新入社員主導で先輩から助言をいただきながらゴーヤを育てることが、新入社員や若手のチームワークを深めることにマッチし、「ゴーヤプロジェクト」が2017年よりスタートした。

成果を出すために 工夫を凝らす

省エネ効果は果たして…

暑さがピークに達する8月下旬、報告会が開催された。ゴーヤは猛暑により萎びた時期もあったが、無事復活を遂げ、生い茂るほど成長した(写真2)。報告会ではプロジェクトの振り返り、問題点に対する解決方法、ゴーヤの成長による省エネ効果をプレゼンした。グリーンカーテンの有無で比較した温度グラフを示し、室温上昇抑制効果から1000kW/月の節電効果を示すことができた。プロジェクトを終えた新入社員からは、「結束を深めることができた」「若手の先輩方をはじめ、さまざまな方と交流するきっかけとなった」との感想を得ることができ、プロジェクトの目的である若手のチームワーク向上につながったと思う。

ゴーヤは先輩から 後輩へ引き継がれる

新入社員が栽培したゴーヤは自ら調理し、社長をはじめとした幹部社員にふるまうのが恒例である。本年度は「ゴーヤのキーマカレー」「ゴー

に見える形で最大の成果を出す」という指令が出された。入社したばかりの同期とともにプロジェクトを遂行し、報告会でのプレゼンに向けて新入社員はさまざまな工夫を凝らすのだ。ゴーヤプロジェクトが通達され、新入社員はまず「土の選定」を行った。グリーンカーテンの設置場所に生垣があるが、生垣の土がゴーヤ栽培に適したものと分らない。省エネ効果にはゴーヤの成長速度が大きく影響するため、より栄養分の高い土を選定する必要がある。土は工場敷地内の7カ所から採取し、色味などから栄養が高いと思われる腐葉土を選定した。次に、ゴーヤを植える「プランターの材料」である。工場敷地内で最



写真2 グリーンカーテンの前で記念撮影

ヤのかき揚げ「ゴーヤの肉詰め」を作り、おいしく食べていただいた。もう一つの恒例は、ゴーヤの苗木の引継ぎである。本年度の新入社員も先輩が栽培したゴーヤの苗木を引き継いだ。同様に来年度の新入社員のために苗木を引き継ぐ。

一見、突拍子もない取り組みだが「ゴーヤプロジェクト」を通じて新入社員が先輩と交流し、苗木のように先輩から後輩へ技術を継承していくことと、その体験学習が団結力のある良い会社となるための一助になればと思う。

(担当編集委員…山崎哲也)